

■水稻の中干しと穂肥について

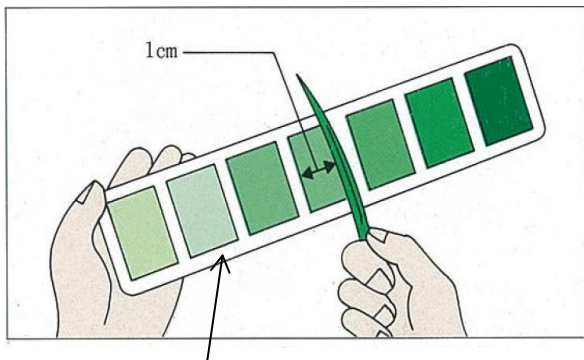
水稻の収量、品質を確保する上で水管理と施肥はとても重要です。今回は中干しと穂肥の効果や実施する上でのポイントを紹介します。

【中干し】

- 目的：①ムダな分けつの発生を抑制 ②土壤に酸素を供給し、根の伸長を促進
③機械作業に適した土の固さを確保
- 時期：出穂期(穂が茎から出る時期)の45～30日前
- ポイント：田面に小さなヒビが入る程度を目安に行ってください。中干し後は間断灌漑(水入れ：2～3日、水抜き：2～3日を交互に)を行ってください。
※中干しが不十分な場合、茎数が過剰になると茎が細くなり倒伏しやすくなったり、籾数が過剰になり未熟粒が増えます。また、中干し時期が遅れると水の供給不足により籾数の減少につながります。

【穂肥】

- 目的：一穂籾数の増大、未熟粒の減少による収量、品質の向上
- 時期：出穂期の25～15日前
- ポイント：NK化成を窒素成分で1～2kg/10a施肥してください。施肥量は葉色板で2番目に新しい葉の色の濃さを確認し調整します。
例(コシカ)：葉色4以上(穂肥無し)、3～4(通常施肥)、3以下(早めに施肥)
※稲の生育が遅い場合は早めに施肥してください。なお、早すぎると倒伏しやすく、遅いと着粒数の不足、食味の低下の原因になります。
※山梨てまいらず、軽いJAんてまいらず等、元肥一発肥料を使った場合は追肥を行わないでください。



葉色板(カラースケール)

使用したい方は普及センターまたは農協にご連絡ください。

- ①2番目に新しい葉を1枚取ります。
- ②葉の中央部を葉色板の上に約1cm離して、色の濃さを見ます。
- ③数本の葉を測定し、平均値を求めます。

峡南農務事務所 農業農村支援課
(峡南地域普及センター) 生産振興担当

055-240-4131